

ネズミ

妻 あなた、ご存じかしら？ 寝室にこの間からネズミがいるのよ。

夫 ほお。誰がネズミを寝室に入れたんだい？

妻 馬鹿なことを。誰も入れたりしませんよ。勝手にもぐり込んで来たにちがいないわ。

夫 もぐり込んで来たのか？

妻 まあ、飛んで来たんじゃないわね。

夫 コウモリっていう、羽つきのネズミだっているぞ。コウモリなら飛ぶさ、というより羽ばたくな。だが今度の場合、羽のないふつうのネズミだとすると、それなら、そいつは寝室に走って来たんだ。だから、ネズミかコウモリか、まづはつきりさせねばならん。退治の仕方がちがってくるから。で、どんなネズミだったんだ？

妻 わからないわ。私、ネズミを見た訳じゃないのよ。

夫 なら、どうして、寝室にネズミがいるなんて言うんだい？

妻 音を聞いたの。

夫 聞いた？ 聞くだけなら、どうってことないだろ。ネズミがゴソゴソいませたって別に痛くもないんだから。ネズミがお前をかじれば痛いだろうが。

妻 ネズミが私の布団の中にもぐり込むってことも、きつとあるわ。

夫 ほお。お前の布団の中に誰がもぐり込むものか。

妻 何てことおっしゃるの。もしネズミが布団の中にもぐり込んで、私をかじったらって、思ったのよ。

夫 それなら、ネズミの音を聞くのじゃなくて、感じるって訳だ。それで、もしかじったら、すぐに私を呼びなさい。そしたら、斧を持って駆けつけて、ネズミを打ち殺してやる。でも、まだ私が行きつけの飲み屋から帰ってなかつたら、ネズミに、お前さんのその高貴なお体をそのままかじらせておいてやるんだな。ベンガルのトラでなくて良かったって思いながらね。